

「方正の会」の顔 藤原知秋さん

—語学力を日中友好に生かして—

藤原知秋さんは、方正友好交流の会が発足してからのメンバーで理事を務めている。しかし多忙な通訳の仕事もあって、なかなか当会の仕事にも力を投入できない事情がある。が、とても頼もしい、会のメンバーである。下は、『日中友好新聞』2011年7月5日号のコラムに紹介された彼のプロフィールだ。



語学力を 日中友好に生かして

母、秀子さんが残留孤
児である。父、邢永寛さ
ん、妹の4人で1990
年に日本に帰国した。1
970年中国東北地方の
吉林市で生まれ、中国の
高校を卒業後、静岡大学
の言語文化学科で学び日
本語を習得した。民間の
中国語学院、中国貿易商
社などを経て、2005年
の「中国残留孤児国家賠
償訴訟」で通訳として協
力、その後現在の中国語
通訳・翻訳業を職業にし
ている。企業の語学研修
・民間の語学問題が、『
中国脅威論』を含みなが
ら必要以上にクロアチア
の補償訴訟の通訳として
報道されたことがある。
(直)



〈824〉

帰国2世、通訳・翻訳業

藤原知秋さん
ともあまき

「今年で中国20年・日本21年、ちょうど半分ずつ暮らしたことになりま

す」と、半生を振り返り
「日中間のトラブルを
どう見えていますか」と
聞くと、「私の接する語学
に関係する日本人は中
国会東京都連の中国語
講師が縁で会員に。06
年の協会代表団の訪中
のさい通訳として同行
した。現在都連の理事も
務める。日本で知り合
った中国人の妻との間
に1女がいる。」

「草の根」の友好連
動がますます大事だ
と思います。また私
たち2・3世の責任
も重いと感じています
と分析する。

連絡先 ☎ fax03(6795)1066 E-mail:mr.fujisan@gmail.com